

しょうがいしゃ じりつせいかつじょうほう
障害者の自立生活情報

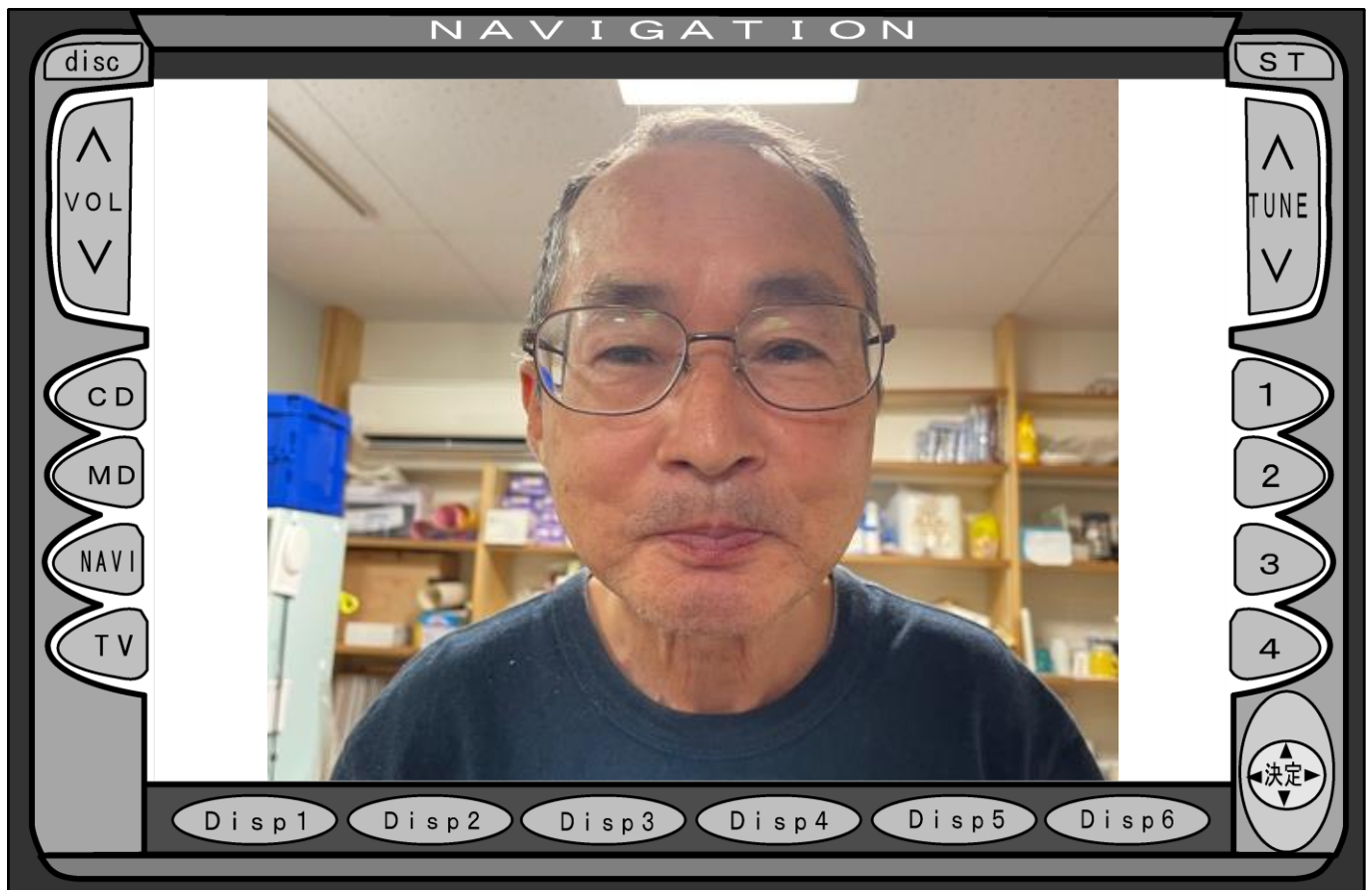
ナンバー
No.67



ナビゲーション

ねん がつごう
(2021年7月号)

じりつ みちあんない
自立への道案内



しゃかいふくしほうじん きょうかい いけだ たかし
社会福祉法人あいえる協会 池田 隆さんにインタビューさせていただきました。

もくじ

- シリーズ いろんなテーマの「なぜ」を解消！
～なぜ施設は作られ なくならないのか。なくしていくために必要なことは？～2
- シリーズ ～～Sevenメッセージ～～株式会社ユーダ ひがしのこうすけ 東野公亮さん.....10
- 編集後記.....12

シリーズ いろいろなテーマの「なぜ」を解消！

～なぜ、施設は作られ、なくならないのか

なくしていくために必要なことは？～

このコーナーでは教育、施設、交通など各分野に詳しい人にインタビューをしていき、当時の障害者や制度の状況、その制度はどう変わってきたのか？今、取り組んでいること、これからの課題はなにか、など語ってもらうというコーナーです。昨年度まで5回にわたり～インクルーシブ教育は、なぜ必要か～というテーマで連載してきました。今年度からテーマを施設に変え『なぜ施設は作られ、なくならないのか なくしていくために必要なことは？』というタイトルで連載していきたいと思います。1回目の今回は、大阪市住吉区の社会福祉法人あいえる協会（以下：あいえる協会）で活動されている池田隆さんに、障害者運動に関わるきっかけ、施設取り組みのやりがい、相模原障害者施設殺傷事件（以下：相模原事件）のことや、なぜ施設はなくならないのか等、お話をいただきました。

～施設の外出ボランティアから始めた～

山下：今年度から、このコーナーのテーマを「施設」に変えて、いろんな方に取材をしていこうと思っています。1回目は、あいえる協会の池田隆さんにお話を聞いていきたいと思っています。コロナ禍ということもあり、Zoomを使っ

ての取材になりますが、よろしくお願いします。

池田：よろしくお願いします。

山下：さっそくですが、池田さんが障害者運動に関わるきっかけを教えてください。

池田：あいえる協会は、1989年に施設の外出サービスネットワークというボランティア活動をスタートさせました。当時、“おさか行動する障害者応援センター”の機関紙に、施設外出介助サービスのボランティア募集というのがあって、それに応募したことから関わり始めました。

山下：具体的な取り組みはどんなことをされてき

ましたか？

池田：施設入所者の外出を支援する活動です。外出をと

おして、入所者に声を上げていく力をつけていってもらおうと思

いました。活動を始めた

たら、人伝いに多くの人から外出希望が出てきたんです。

山下：経験を積んでいくために、外出は大切な

ことですね。

池田：電車に乗ったり、お金や時間の使い方を経験したり、いろんなことをテーマにして外出経験をしてもらいました。その一環として「泊まろう会」を

やました と かい と
山下：「泊まろう会」は、どこに泊まっていたん
ですか？

いけだ あたら つく さぎょうしょ がいいしゅつきぼう ひと
池田：新しく作った作業所です。外出希望の人
がどんどん増えてきて、ボランティアだけ
では、対応できないということで、作業所
をつく きばん つく はなし
を作って基盤を作ろうという話になりました。

やました さぎょうしょ つく かね ひつよう おも
山下：作業所を作るのは、お金が必要かなと思う
んですが、どうされたんですか？

いけだ きしだ げん きょうかい
池田：岸田さん（現：あいえる協会・ピア・エ
ンジン）や、古田さん（現：障害者の自立
かんぜんさんか め ざ おおさかれんらくかい ぎ
と完全参加を目指す大阪連絡会議）などで
にんわく さぎょうしょ しんせい ねん がつ
5人枠の作業所の申請をして、1991年9月か
らさぎょうしょ はじ がつ じよせいきん
ら作業所を始めて 12月から助成金をもら
いました。それで事務所を作ったりスタッ
フをやと やました い
フを雇ったりしました。山下さんの言う
とおり、作る時には、けっこうお金がいるも
んでね。カンパ活動をしたんですけどね。

やました わたし ひがしにほんだいしんさい と き かつどう
山下：私も東日本大震災の時など、カンパ活動
をしたことはありますが、場所は天王寺の
ちかがい
地下街とかですか？

いけだ かい まん まいつき
池田：そうですね。1回で30万ぐらい。毎月やっ
てたんやけど、13時～18時まで。月3回や
って まんえん あつ
って 100万円ぐらい集まったこともあり
ました。阪神淡路大震災の後に、カンパす
だんたい ふ きんがく
る団体が増えてね、なので、ガクっと金額
へ さぎょうしょ と
が減りました。作業所で泊まれるように
ふとん じゅんぴ かいぞう ふろ い
布団を準備したり、改造してお風呂に入れ
るようしておいたんですよ。「泊まろう
かい けいけん ひと なか ごじりつ
会」を経験した人の中で、その後自立した
ひと たくさん
人が沢山います。

やました さぎょうしょ と べんり
山下：作業所に泊まれるスペースがあるのは便利
ですね。話は変わりますが、当時、施設の
もんだい ぎょうせい
問題について、行政とのやりとりは、ど
ふう
んな風にやっていたんですか？

いけだ とうじしゃ しせつちよう ぎょうせい あつ しせつ
池田：当事者と施設長と行政と集まって施設の
もんだい はな あ ば も
問題について話し合う場を持っていまし
た。プライバシーの問題、早い夕食時間、
つめ しょくじ もんだい はな
冷たい食事などの問題をとりあげて話し
あ とうじしゃ じしん はつげん
合いました。当事者自身の発言により、あ
ていど かいぜん がいいしゅつ
る程度は改善されました。外出サービスも
しせつにゆうしよしゃ たいおう
すべての施設入所者には対応できないの
で、外出の制度を行政に作らせようとし、
ねん おおさかし しせつ
1991年に大阪市で施設ガイドヘルパー
せいど
制度ができました。

やました しせつ か ちいきいこう
山下：施設を変えることは、地域移行とセットで
むり
ないと無理ということですか？

いけだ しせつ おお しょうがいしゃ すく
池田：そうですね。施設は多くの障害者を少ない
しょういん かんり せいかつ きゆうーおーえる
職員で管理する生活ですので Q O L
せいかつ しつ かいぜん げんかい
（生活の質）の改善には限界があります。
ちいきいこう ぜんてい しせつ かいぜん ひつよう
地域移行を前提とした施設の改善が必要
おも ちいきいこう しく
だと思ひます。そのため、地域移行の仕組
みをつく
みを作っていこうということで、グループ
ホームをつく ちいきいこう ば
ホームを作り、地域移行のステップの場と
ふくし
して福祉ホームをつくったりしていきま
した。



てんのうじ がいと う かつどう
天王寺で街頭カンパ活動

～地域移行した話を聞くと嬉しいです～

やました いけだ はなし き うれ
山下：池田さんが、施設や障害者の問題に関わ

ってきた動機や理由はなんですか？

いけだ しょうがいしゃ あ たいせつ
池田：いろんな障害者と会うことは大切なこと

やと思います。そんな中で施設をなんとか

せなアカンという思いはありました。どん

な支援者も同じやと思うんやけど、当事者

とお会いする中でなんとかしたいという

気持ちが出てくると思います。ボランティア

ア活動で、沢山の施設障害者の人たちと

関わったということが大きいと思います。

それから、いつでも僕は障害者運動を

辞められる、逃げられる存在なわけだけど、

当事者は逃げるわけにはいかない、僕は

障害者に対して第三者ではなく当事者な

のでは、という想いも、今日まで継続する

動機になったのかなと思いますね。

やました しゅざい う あ と き ねんいじょう
山下：この取材の打ち合わせの時に、30年以上

障害者運動に関わってきたとお話され

ていましたが、長年関わってきて、やりが

いは、どんなところに感じますか？

いけだ ぼく こべつ がいしゅつき ぼう
池田：僕は個別の外出希望にそってボランテ

ィアさんを派遣して外出を支援していま

したが、外出する人たちのほとんどは地域

移行とかを考へてる人はいなかったと思

います。でも、そんな人たちが後になって

「一人暮らしをした」「グループホームに

入居した」と聞くことがあったんですが、

そういう話を聞くと私たちの活動は、

無駄ではなかったと嬉しく思います。



じりつせいかつ 自立生活センター・まいど ひろめしき お披露目式

～誰が主人公やねん！～

やました いけだ かか ちいきいこう と
山下：池田さんが関わってこられた地域移行の取

り組みの中で、印象に残っている方はいま

すか？

いけだ ひと
池田：ちょこちょこいますね。その人っていうよ

り、その人が発信した言葉とかね。例えば

一日の外出を終え、施設に送っていくん

ですけど。夕ご飯を食べながら「(施設に)

帰りたくない」とかボソッと言うんですよ

ね。その時は、返事のしようがないのです

けどね。ずっと印象に残ってましたね。

そういう声・発言というのはしっかり持ち

続けるのは大切かなと。

やました ぼく しせつにゆうしよしゃ がいしゅつ
山下：僕も施設入所者と外出をしたことがある

んですが、たこ焼きを食べたりなんばグラ

ンド花月と一緒に観に行ったりして楽しそ

うにしていって、入所者の人と別れる時は寂

しい思いをしました。

いけだ がいしゅつ
池田：そういうのはありますよね。あとは、外出

の時のエピソードで、みんなで話をして

いた時に、突然失禁してしまった人がいま

した。それほど、トイレ介護を頼むことに

ていこう おも すいぶん
抵抗があるんだなと思いましたね。水分を
ひか くすり の い
控えとか、薬を飲んで、トイレに行く

おき
のを抑えとかいろいろありましたけど
しっせん い ひと ぼく
失禁まで行く人はいなかったですね。僕ら

いしき かん しせつ
の意識とのギャップを感じました。施設は
すご あらた おも
凄いいところやなと改めて思いましたね。

やました わたし しせつ ひと がいいつ はな
山下：私も施設の人と外出をしたと話しました
しせつちょう かみ まい は
が、施設長が「紙おむつを 5枚履いてい
るからトイレに行かなくて大丈夫です。」
い き おどろ
と言われていたのを聞いて驚きました。

いけだ しょくいん たいおう
池田：それも、職員が対応しやすいようにやつ
ててますよね。それから施設は曜日がない
と聞いたことがありますね。ちいき
地域やったら きょう にちようび
「今日は日曜日だ。〇〇があるから
げつようび おも
月曜日だ」とかあると思うんだけど、そう
いしせつ
いうことが施設にはないんです。

やました へんか せいかつ まいにちつ わたし
山下：変化のない生活が毎日続いているのは、私
み たいくつ おも
たちから見たら退屈だと思うんですが、
にゆうしよしや あ まえ
入所者は、それが当たり前になっていて
いるんでしょね。

いけだ しせつ にちちゅう いま つく
池田：施設には、日中のプログラムを今は作っ
ていところもあると思います。施設は待
つことが多いでしょ。風呂にしても着替え
をおお ふろ き が
をして じかん ま じっさい はい
して 1時間ぐらい待って、実際に入るの
ふん お なに
は 5分で終わるとかね。何をするにしても
ま おお
待つことが多いですよ。

やました しせつ もんだい なに あらた かんが ひつよう
山下：施設の問題は何かと改めて考える必要が
ありますね。

いけだ きほんてき しょうがいしゃ
池田：そうですね。基本的には障害者のニーズ
もと うご
に基づいて動いているのではなくて、
しょくいん つごう うご すく
職員の都合で動いているんですよ。少
にんずう おお ひと かんり かたち
ない人数で多くの人を管理する形です。
かんり
管理するということはどういうことか、
かんけい ぎゃくてん だれ
関係が逆転してしまうんですよ。誰が

しゅじんこう おも
主人公やねん！と思います。

オンラインで施設と繋がれたら～

やました はなし き ぼく しせつ はい
山下：お話を聞いていて、僕が施設に入ってい
ころ おも だ
た頃のことを思い出しました。コロナの
かんけい しせつ ほうもん しせつ しょうがいしゃ
関係で施設訪問とか、施設の障害者も
がいしゅつ しんばい
外出できない。心配することとか、そん
なか と く
な中でも取り組んでいることはあります
か？

いけだ へいさてき じょうきょう
池田：これまでも、閉鎖的な状況があったんや
けど、それに輪をかけてコロナという理由
そと い き
で外との行き来をシャットダウンしてる
よね。

やました た だんたい いっしょ と く
山下：ちゅうぶでも他団体と一緒に取り組んでい
る施設取り組みも活動が止まっています。
しせつ と く かつどう と
ちいき かんけい と だ き
地域との関係が途絶えているのは、気にな
ります。

いけだ がいぶ い き そと
池田：外部との行き来がなくなってしまうと、外
からチェックする目が完全になくなって
しまう。ということは、虐待が、生じて
きけん たか おも
くる危険がより高くなっているかなと思
います。施設職員が施設での処遇の
しせつ しょくいん しせつ しょう
じょうきょう み
状況を見ていて「これでいいんだ」「こ
ういう対応でいいんだ」となった時に、ど
んどん、障害者ってこういうもんだ、
ぎゃくたい おも
虐待していいんだ、となってしまうと思
います。

やました しせつ かんけい ぎゃくたい う
山下：そうですね。施設の関係が虐待を生んで
よういん つく おも
いく要因を作っているように思えますね。
きょうか いま
それを、より強化しているのが今のコロナ
じょうきょう
の状況なんですね。

いけだ つな つく
池田：だから、繋がるルートをなんとか作ってい
かないといけないと思っています。僕らが

いまかんが しせつ
今 考 えてい いるのは、リモ ー トで施 設 との
かんけい つく おも
関 係 を作 っ てい けたら なと思 っ てい ます。
やました ぐたいてき かんが
山 下：具 体 的 には、ど ん なこ とを 考 えてい ます
か？

いけだ ていきでき ちいき ばんぐみ つく
池 田：定 期 的 に地 域 との番 組 チャンネ ル を作 っ て
しせつ ていきよう たと
そ れを施 設 に提 供 し てい く。例 え ば〇〇
ようび じ ぶん ていきでき ちいき
曜 日 の 15 時 30 分 か ら、定 期 的 に地 域 か ら
はっしん ばんぐみ しせつ じょうえい
発 信 す る番 組 を施 設 で上 映 し たら だ うか
かんが だんたい よ
な と 考 えてい ます。い ろ ん な団 体 に呼 び
か け て、そ れぞ れの団 体 で、い ろ ん なツ ー
ル とか もあ るや ろ う し、自 分 の生 活 を
しょうかい かたち しせつ
紹 介 す るで もい い し、い ろ ん な形 で施 設
はいしん おも
に配 信 し てい けたら なと思 います。

やました ずーむ そうほうこう で き
山 下：Zoom は双 方 向 で出 来 るけ ど、そ れをす るた
め には、職 員 が障 害 者 にカメ ラやマイ ク
む おも
を向 けな いとダ メやと思 うん ですけ ど、
しょういん て ま
職 員 は「手 間 だ！」と な り そ う だ らう 。

いけだ つ かんかく み
池 田：テ レビ を付 け る感 覚 で見 て も ら う だ け や っ
だいじょうぶ
た ら大 丈 夫 か な と。そ うい うこ ろ か ら入
そうほうこう で き
っ てい っ て、い ず れ は双 方 向 に出 来 たら い
にゅうしょしせつ と き ほか しせつ
い な と。入 所 施 設 の取 り 決 め を他 の施 設
しょうかい にゅうしょしや
に紹 介 す る とか、入 所 者 のプ ロフ ィ ー ル
しょうかい おも
を紹 介 す る とか、ど ん な ん で もい い と 思
う。そ うい う風 なこ とを 発 信 し 合 う。そ う
ばんぐみ つく じかんたい うつ
い う番 組 を作 っ て「そ の時 間 帯 は映 っ て る
み ひ と み かん
よ、見 たい 人 は見 て くだ さ い。」と そ ん な感
じ で。

しゃかい しげん た ～社 会 資 源 が 足 り な い か ら～

やました しょうらい そうほうこう で き
山 下：将 来 は、双 方 向 でや り と り が出 来 たら い
こべつ そうだん つな
い だ す ね。そ こ か ら、個 別 の相 談 な ど に 繋
よ おも
が っ てい け ば、も っ と 良 い な と 思 います。
いけだ しせつ ほしゅてき けいかい
池 田：施 設 は保 守 的 や か ら ね。警 戒 す る か も し れ
きんきゅうじ たいせんげん
ま せ ん。緊 急 事 態 宣 言 が な く な っ て も、

じっしつ へいさてき じょうきよう つづ
実 質、閉 鎖 的 な 状 況 が 続 く ン じ ゃ な い か
おも なに
と 思 い ます し、リモ ー トで何 か をす る と い
いちじてき はなし おも
う の は、一 時 的 な 話 で は な い と 思 う ン で
お も と も ど
す よ。コ ロ ナ が 終 わ っ たら 元 に 戻 る と い う
わけ じ ゃ な く て、こ う い う ツ ー ル を 使 う こ
じょうたいか
と が 常 態 化 す る の で は な い か。

やました く に しょうれい
山 下：国 も リモ ー トを 奨 励 し て ます か ら ね、リ
あ まえ
モ ー トす る の が 当 たり 前 に な り そ う だ
ね。

いけだ さがみはら じけんいこう しせつ かんし ふ
池 田：相 模 原 事 件 以 降、施 設 で も 監 視 カメ ラ が 増
じょうきよう
え てい る 状 況 で す。デジ タ ル と い う 形
ひと かんり き ひろ
で 人 を 管 理 す る こ と が コ ロ ナ を 機 に 広 が
かのうせい おも
っ てい く 可 能 性 が あ る な と 思 います ね。
ちいき おも みち ひと
地 域 で も そ う や と 思 う ン や け ど、道 に 人 が
い な く な る で し ょ、そ う し ょ う と し て る じ
とうぜん まち しょうがいしや
や な い け ど、当 然、街 に 障 害 者 も い な く
けんじょうしや しょうがいしや
な る よ ね。そ う す る と 健 常 者 が 障 害 者 と
せつ きかい い み
接 す る 機 会 が な く な る。そ う い う 意 味 で、
しょうがいしや そんざい しゃかい き
障 害 者 の 存 在 が 社 会 か ら 消 え て い く
かのうせい き
可 能 性 が あ る よ ね。こ れ を 機 に、そ う い う
じょうきよう つよ おも
状 況 も 強 ま っ て い く と 思 います。さ っ き
い いちじてき はなし
も 言 い ま し た が、コ ロ ナ は 一 時 的 な 話 で
き い み
は な く て、そ れ を 機 に、い ろ ん な 意 味 で
おお か
大 き く 変 わ っ て い く ン じ ゃ な い か な と。

やました がっこう こうりゅう むかし
山 下：ちゅうぶ で も 学 校 と の 交 流 を 昔 か ら や っ
さいきん こうりゅう
て い ます が、最 近 で は、リモ ー トで 交 流 す
ふ たいめん こうりゅう ほう
る こ と が 増 え ま し た。対 面 で 交 流 す る 方
つた ひ と ひ と つな
が、伝 わ り や す い し、人 と 人 と が 繋 が り や
かん なに よ
す い な 感 じ る け ど、何 も し な い よ り は 良 い
こ ころ
で す よ ね。や っ ぱ り、子 ど も の 頃 か ら
しょうがいしや ふ あ きかい だいじ
障 害 者 と 触 れ 合 っ て も ら う 機 会 は 大 事 だ
おも つぎ しつもん
と 思 います。次 の 質 問 を さ せ て い た だ き た
おも しせつ にゅうしょ あ
い と 思 います。施 設 に 入 所 す る の が 当 たり
まえ ちいき あ
前 に な ら な い よ う に、ま た、地 域 が 当 たり
まえ おも
前 だ と 思 え る よ う に し て い く た め に は、

とうじしゃ しえんしゃ かつどう
当事者や支援者はどんな活動をしていく
べきだと思いますか？

いけだ いま しせつ おも
池田：今、施設なくなったらいい、と思っている
ひと しょうがいしゃ だんたい
人は障害者の団体ぐらいかな。まだまだ
おお ひと しせつ はい ほんにん
多くの人が施設に入っているけども、本人の
いこう おや いこう はい ひと
意向ではなくて、親の意向で入っている人が
ほとんどだと思います。

やました いぜん しせつにゆうしょ かた まね
山下：以前、施設入所されていた方をお招きし
て学習会をしたことがあるんですが、その
かた しせつ にゆうしょけいけん あ
方は、2つの施設に入所経験があり、合わ
ねんかんしせつ にゆうしょ
せて 42年間施設に入所されていました。
にゆうしょ りゆう おや かつて しせつ さが
入所した理由が、親が勝手に施設を探して、
せつめい う き しせつ ほう こ
説明も受けず気がついたら施設に放り込ま
れていました。自分の意志じゃなかったです。
はな おも だ
と話されていたことを思い出しました。

いけだ おや こ しせつ い
池田：親は、子どもを施設に入れるかどうか、
なに き しゃかい おも
何をもって決めるかという社会だと思う。
しゃかいしげん た しせつ い
社会資源が足りないから施設に行かざるを
え しゃかい こ
得ない。社会に、この子がいるということ
しゅちよう しせつ い
を主張できない。だから、施設に入れちゃ
うんだと思います。相模原事件であれだけ
こと お なまえ かく
の事が起こりながら、名前を隠して、もう
いちどしせつ い たいせい
一度施設に入れてほしい、というのが大勢

なんですよ。

やました ほんにん きぼう い おや かつて き
山下：本人の希望が言えず、親が勝手に決めてし
まったり、社会と分けられていることが
もんだい よ せつび ひと たいわ
問題で、どんなに良い設備や人との対話が
とかい ちいき
あっても、どんなに都会にあっても、地域と
つな ほんにん き も
の繋がりがなかったり、本人の気持ちを
む し にゆうしょ おも
無視して入所させるのは、ダメやと思いま
す。もし、本人希望であっても、施設がど
ばしよ せつめい
んな場所かをちゃんと説明しないとイケな
いですよ。

いけだ しせつ こりつ か
池田：施設は孤立してるわけやから、そこを変え
るしかないのかなと思います。単に施設だ

もんだい しゃかいぜんたい み
けの問題じゃなくて社会全体で見えていか
ないといけないなと最近思うんです。わか
らないのは見えないからやね。例えば、
しえんがつきゅう かよ ひと おや とお
支援学級に通っている人は、親を通して
じょうきよう つた で き
状況とか伝えることが出来るけども、
しせつ はっしん ひと
施設では発信する人がいないじゃないで
すか。だから本当に見えなくなるんだと思
います。

やました しせつ じょうきよう
山下：そうですね。なかなか、施設の状況っ
てその場に行かないと見えないことが多
いですよ。

いけだ ぼく しせつ とお み
池田：僕たちも施設が遠いから、いつも見えてる
わけではないですよ。何が起こっている
な お
かわからないんです。例えば、交渉の時に、
たと こうしょう とき
ちいき もんだい
地域のことであったら、いろんな問題を
ぎょうせい い しせつ
行政に言えるけども、施設のことは、
ぐたいき じれい で
具体的な事例が出てこないんです。それは
み ほんとう お
見えてないからやね。本当は、起こってい
ると思いますよ。それが見えないというの
はおも み
は、大きいんじゃないかなと。

やました み もんだい で ひょうか で
山下：見えないから問題も出ないし。評価も出な
いように思います。最近、特別支援学校が
ふ ぶんり
増えて分離させてしまっていますよね。

～ちゃんと向き合うことが大切～

やました しせつ み はなし
山下：施設が見えないというお話でしたが、
さがみはらじけん おな い おも
相模原事件も同じようなことが言えると思
うんですが、相模原事件みたいなことが起
こるのはなぜだと思いますか？

いけだ しせつ こうぞう ぎやくたい う
池田：施設の構造が、虐待を生みだしていく
おんしょう
温床になっている。それがエスカレート
していった、ああいう犯罪になったと思う
んです。施設っていうのを問題にしないと
いけないうのに、今回の相模原事件では、そ

うした反省がされていないと思います。
山下：施設を立て替えて、そこにもう一度、施設
を作ろうとしているからですか？

池田：そうですね。結局、収容するということ
でしょ。根本的な問題は触れられていませ
んよね。

山下：もう 1 回、事件を起こす原因を作っている
ように思います。

池田：もう 1 つは「障害者是不幸を作る人」「お
金がかかる人」「やっかいな人」そういう人
は、極端な話「社会から、消えてもらっ
た方がいい」という考え方だと思うん
です。

山下：考え方が優生思想そのものですね。

池田：優生思想の考え方は、彼だけの考えじゃ
なくて、そういう価値観というのが、社会
にあって、そうした価値観が事件を呼び起
こしたと思うんです。それに対抗するもの
として「人間は生きてるだけで価値があ
る」、ということを言っていかなければだ
めなんですよね。それをみんなが一緒に言
い切れないというところに問題があると
思うんですよ。例えば、彼は意思表示がで
きない人は、殺してもいいんだという言い
方をしていましたが、その人たちは、本当
に意思表示ができないのか、生きている
意味がないのか、不幸を作るだけなのか、
そこはちゃんとそうじゃないと言い切れ
ないといけない。それを言い切るためには、
今の社会の生産性至上主義(人間の価値は
生産性によって決まる)自己責任、能力
主義などの価値観を変えていく必要があ
ると思います。

山下：言い切れるようになるためには、どうした
らいいと思いますか？

池田：ちゃんとその人その人に向き合うことだと
思います。施設は、向き合うことができな
い環境にあるので、「生きている意味がな
い」、という考えになるのでは。

山下：相模原事件のように殺してしまったら、向
き合いようがないし、向き合うきっかけを
なくしていますね。

池田：施設にいる障害者も必要な人と言い切
れないとダメやし、その為に向き合ってい
く必要があると思います。優生思想とい
うのは自分自身の中にある、みんな持つて
るんじゃないかな。「健康なほうがいい」と
か、誰もが持っている気持ちを極端な形
で表している、というふうに思うんで、
他人事じゃなくて自分自身の問題として
みないとダメだなと思う。



とうきょう こうせいろうどうしやう こうぎこうどう
東京・厚生労働省で抗議行動

～社会全体を変えていく必要がある～

山下：さきほど、池田さんも言っていましたが、
本人の意向というのは親の意向で親の
意向は社会の意向を反映してると思うし、
社会そのものが施設をまだまだ、なくして
いかないので、そこをなんとかしないとい
けないと思いました。さて、最後の質問を
させていただきたいと思います。この取材

のテーマでもあります、なぜ施設は作られ、

なくならないのかということなのですが、

池田さんの考えを聞かせてください。

池田：社会のニーズがあるからだと思います。

施設が出来た背景っていうのは、労働力

の確保で女性が働くことが当たり前にな

る、核家族化がすすんで家族が子どもの

面倒をみれなくなった、なかなか社会も受

け皿がない、そんな中で、施設のニーズが

増えてきた。もう 1 つは社会が障害者を見

る目というものが、まだまだ親が面倒をみ

るものだという考え方。子供の面倒は、産

んだ親が責任を取るのが当たり前という

考え方。

山下：親は障害者を隠そうとして、隠すために

施設に入れるという話になるんですね。

池田：相模原の例もあったけども、名前を出さな

いでしょ。自分は障害者の親だと名乗ら

ない。そういう社会だということ、そうい

う背景が施設を必要としているのだと思

います。

山下：そこに、対抗していくためには、地域で基盤

を作って選択肢が増えれば、変わっていく

可能性があると思いました。

池田：今は選択肢がないから、施設に行かざるを

えないということだし、障害者を隠そう

という社会の雰囲気が施設を必要として

しまうということです。施設は経営し

ていかなくってはならないので、入所者が

いなくなったら経営が出来なくなるとい

う問題があるので、いったん施設をつくっ

たら入所者を維持していく必要もありま

す。

山下：そういう状況のなかでも、今後、私た

ちが取り組んでいくことは、どんなことだ

と思いますか？

池田：施設をなくしていくためには、全体的に

社会を変えていかないと、難しいんちゃ

うかなと思います。そのために、施設がな

んでアカンのか、「社会と関係を切ってい

ること」「隔離されていることが問題」「ど

んなに重度の障害者も地域での自立生活

が可能」だということをしっかりと訴え

ていくこと。30年以上前からずっと主張

していたことやけど、これからも、粘り強

く訴えていって、取り組みを進めていか

ないとダメだと思います。

山下：今日は、施設に対する池田さんの思いを

たくさんお聞きすることができました。

ありがとうございました。

池田：ありがとうございました。

セブン メッセージ

【プロフィール】

ひがしの こうすけ
東野 公亮

かぶしがいいしや だいひょうとりしまりやく
株式会社ユーダ 代表取締役

くるま きんきゅうしゅうり
(車 いす 緊急修理サービス)

ねん にゅうしや ねんめ
2005年 入社 17年目



・この仕事を選んだのは、なぜですか？

こうこう ねんせい とし えき かいごしやぼしゅう はい かいご そうぎょう
高校1年生の時、駅でもらった介護者募集のビラをみて、初めてバイトで入った介護がユーダの創業
しゃちょう うえだ たかし まいしゅうう えだ ふろ かいご かよ かか なか
社長 上田隆志でした。それから毎週上田さんの風呂介護に通い ユーダに関わっていく中で
にゅうしや き
入社を決めました。

・大学時代に何を学んでいましたか？

ももやまがくいんだいがく しゃかいふくし まな そつろん しょうがいしゃうんどう か
桃山学院大学で社会福祉を学びました。卒論は障害者運動について書きました。

・仕事をするまでに障害者との関わりはありましたか？

おさななじみ きん しょうがいしや かか だいがく いっしょ あそ
幼馴染に筋ジストロフィーの障害者の友達がいって、大学まで一緒によく遊んでました。

・仕事やりがい（大切にしていること）を教えてください。

とうじしや じりつせいかつ ちよくせつかか ちから こと よろこ かか かた
当事者の自立生活に直接関わって力になれる事が喜びです。ユーダでしかできない関わり方・ご
ていあん たいせつ
提案を大切にしています。

じりつせいかつ かた ぶっけんさが どうこう いただ ふか ほ さ
自立生活をはじめる方の物件探しから同行させて頂いたりなど、なるべくニーズを深く掘り下げら
れるよう各区自立生活センターと連携させて頂いています。

ぎょうむ おお ひろ おおさかしな い ちゅうしん こと あんけん じかん
業務エリアを大きく広げすぎず、大阪市内を中心とする事でひとつひとつの案件をゆっくり時間を
かけて取り組める事を目標としています。

こんご しゃいんたいせい じゅうじつ こ こ もくひょう すこ ちか
今後、社員体制の充実と個々のスキルアップにより、目標に少しでも近づけていきたいです。

まち でんきや ちい き みつちやく かる うご まわ こと だいじ おも
町の電気屋さんみたいな地域に密着してフットワーク軽く動き回る事が大事だと思っています。

・仕事をする前と今で障害者観に変化はありますか

あまり変わらないと思いますが、私が仕事でお力になるだけでなく自分自身 困った時、多くの事を助けて頂くなかで関係性が深まっていると感じます。

2年前、喜多社長が急死して会社が混乱状態の時は、本当にユーザーさんに支えて頂きました。心のこもったお別れ会を創り上げて頂いたり、事業のアドバイスから実務のお手伝いまで親身になって助けて頂きました。「修理は少々遅くなっても何とかするからがんばって」と声をかけてくださるユーザーさんも多数いました。今のユーダはそんな支えがあって存続しているので、より良いサービスを構築して恩返ししていきたいです。

・先代の社長からの教訓で印象に残っている事は、ありますか？

初代社長 上田 隆志

会社の既存の仕事に捉われないよう教えられました。

障害者プロレスで東京、福岡へ試合に行ったりとうじしゃ かくとう ぎ どうじょう かよ でんどうくるま たいきゅう 当事者と格闘技道場に通ったり電動車いす耐久マラソンしたり、業務以外の事を率先してやる中で色々な事を吸収できたと思います。お酒の呑み方が豪快で、呑んだら「一貫する事と堂々と生きる事や」とよく言っていました。



ユーダの株主総会 前列中央が上田隆志

2代目社長 喜多 英主

喜多さんにはユーダの仕事を楽しむ事を教わりました。喜多さんは、仕事を心底楽しんでいました。ハードワークしながら楽しそうにしている喜多さんを慕う方がたくさんいて、喜多さんに相談したら何とかなるという空気を持っている社長でした。様々な障害者の方と関わり関係を築いていく時、喜多さんやったらどうしてたかなと私自身いつも考えます。



ポジティブキャンペーン

左から3人目が喜多英主

・座右の銘

すぐ「できない」「無理」と言わないこと

